

# 池田市埋蔵文化財発掘調査概報

2011年度

2012年3月

池田市教育委員会

## 序 文

池田市は大阪府の北西部に位置し、五月山の緑、猪名川の水の流れに囲まれています。このような自然の豊かな環境の中、人々が先史の時代から営み始めています。

近年はこの地も、陸・空の交通の要衝として、また、大阪のベッドタウンとして開発が進み、大きく発展しました。しかしながら、開発・発展のために、我々の祖先が伝え残してきた文化遺産や自然が破壊され、昔の面影がしのぶことができないほど様変わりしてしまったことも事実です。祖先から受け継がれてきた文化遺産を現代生活に反映しつつ、また、後世に伝えて行くことが我々の義務と考えております。

この報告書は、上述した状況の中、危機に面している埋蔵文化財について、国の補助を受けて実施した発掘調査の概要報告であります。本書が文化財の理解に通じれば幸いと存じます。なお、調査の実施にあたっては多くの御指示、御助言をいただいた諸先生並びに関係機関をはじめ、土地所有者、近隣住民の方々には文化財保護に対して、格別の御理解と御協力をいただき、心より感謝と敬意を表し、厚く御礼申し上げます。

平成 24 年 3 月

池田市教育委員会  
教育長 村 田 陽

## 例 言

1. 本書は、池田市教育委員会が平成 23 年度国庫補助事業（総額 1,200,000 円、国庫 50%）として実施した埋蔵文化財緊急発掘調査の概要報告書である。
2. 調査は池田市教育委員会教育部生涯学習推進課が実施し、中西正和が現地を担当した。
3. 本書の執筆・編集は中西が行なった。また、本書の製図・遺物実測にあたっては野村大作・辻武司の協力を得た。
4. 本書で使用する土層の色調は、『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所 色票監修）による。
5. 調査の進行にあたっては、施主並びに近隣住民の方々にご理解、ご協力をいただいたことに対し、深く感謝の意を表する次第であります。

## 目 次

I	歴史的環境	1
II	池田城跡発掘調査	5
	池田城跡第 69 次調査	6
	池田城跡第 68 - 2 次調査	7
	池田城跡第 70 次調査	8
	池田城跡第 71 次調査	9
III	宮の前遺跡発掘調査	10
	宮の前遺跡第 56 次調査	11
	宮の前遺跡第 57 次調査	12
IV	豊島南遺跡第 10 次調査	13
V	禅城寺遺跡第 14 次調査	15
	図 版	
	報告書抄録	

## 図 版

- 図版 1 1) 池田城跡第 69 次調査 第 1 トレンチ全景 (南東から)  
2) 池田城跡第 69 次調査 第 2 トレンチ全景 (南から)
- 図版 2 1) 池田城跡第 68-2 次調査 トレンチ全景 (南東から)  
2) 池田城跡第 70 次調査 第 1 トレンチ全景 (南から)
- 図版 3 1) 池田城跡第 70 次調査 第 2 トレンチ全景 (東から)  
2) 池田城跡第 70 次調査 第 3 トレンチ全景 (西から)
- 図版 4 1) 池田城跡第 71 次調査 第 1 トレンチ全景 (北東から)  
2) 池田城跡第 71 次調査 第 2 トレンチ全景 (北東から)
- 図版 5 1) 宮の前遺跡第 56 次調査 第 1 トレンチ全景 (南東から)  
2) 宮の前遺跡第 56 次調査 第 2 トレンチ全景 (南東から)
- 図版 6 1) 宮の前遺跡第 57 次調査 トレンチ全景 (北東から)  
2) 豊島南遺跡第 10 次調査 第 1 トレンチ全景 (南東から)
- 図版 7 1) 豊島南遺跡第 10 次調査 第 2 トレンチ全景 (南東から)  
2) 豊島南遺跡第 10 次調査 第 3 トレンチ全景 (南東から)
- 図版 8 1) 禅城寺遺跡第 14 次調査 第 1 トレンチ全景 (北から)  
2) 禅城寺遺跡第 14 次調査 第 2 トレンチ全景 (北東から)
- 図版 9 1) 池田城跡第 69 次調査出土遺物 1 2) 池田城跡第 69 次調査出土遺物 2  
3) 池田城跡第 69 次調査出土遺物 3 4) 池田城跡第 69 次調査出土遺物 5  
5) 池田城跡第 69 次調査出土遺物 6 6) 池田城跡第 69 次調査出土遺物 7  
7) 池田城跡第 69 次調査出土遺物 8
- 図版 10 1) 池田城跡第 69 次調査出土遺物 表 2) 池田城跡第 69 次調査出土遺物 裏  
3) 豊島南遺跡第 10 次調査出土遺物 1 4) 豊島南遺跡第 10 次調査出土遺物 2  
5) 禅城寺遺跡第 14 次調査出土遺物 表 6) 禅城寺遺跡第 14 次調査出土遺物 裏

## 挿 図 目 次

### I 歴史的環境

第 1 図	宮の前遺跡石棒	1
第 2 図	遺跡分布図	2
第 3 図	豊島南遺跡 方形周溝墓	3
第 4 図	娯三堂古墳	3
第 5 図	池田城跡主郭部 庭園跡	4



II	池田城跡発掘調査	
	第6図 調査地位置図	5
	池田城跡第69次調査	
	第7図 トレンチ位置図	6
	第8図 トレンチ平・断面図	6
	第9図 出土遺物実測図	7
	池田城跡第68-2次調査	
	第10図 トレンチ位置図	7
	第11図 トレンチ断面図	8
	第12図 池田城跡第68次調査状況写真	8
	池田城跡第70次調査	
	第13図 トレンチ位置図	8
	第14図 トレンチ断面図	8
	池田城跡第71次調査	
	第15図 トレンチ位置図	9
	第16図 トレンチ断面図	9
III	宮の前遺跡発掘調査	
	第17図 調査地位置図	10
	宮の前遺跡第56次調査	
	第18図 トレンチ位置図	11
	第19図 トレンチ断面図	11
	宮の前遺跡第57次調査	
	第20図 トレンチ位置図	12
	第21図 トレンチ断面図	12
IV	豊島南遺跡第10次調査	
	第22図 調査地位置図	13
	第23図 トレンチ位置図	13
	第24図 トレンチ平・断面図	14
	第25図 出土遺物実測図	14
V	禪城寺遺跡第14次調査	
	第26図 調査地位置図	15
	第27図 トレンチ位置図	15
	第28図 トレンチ平・断面図	16
	第29図 出土遺物実測図	16

## I 歴史的環境

池田市は大阪府の西北部に位置し、東西4.1km、南北9.2kmの南北に細長い市域で、西摂平野の北東部、丹波山地に源を発する猪名川が北摂山地を分断して平野部に出たところにあり、古くから谷口集落として、大阪と丹波、能勢地方の物資集散、文化交流に中心的な役割を果たしてきた。

池田市の地形は、市域のほぼ中央を五月山が占め、それより北には、北摂山地および余野川によって形成された沖積平野が広がっている。また、五月山より南には、標高50mの緩やかな五月丘丘陵が広がり、その南側には、宇保段丘が位置し、更に南側には、猪名川によって形成された広大な沖積平野が広がっている。このような自然環境の中、人々は旧石器時代から生活を営んでいたことが近年の発掘調査で明らかになっている。

### 旧石器時代

旧石器が出土した遺跡は、伊居太神社参道遺跡、宮の前遺跡（蛍池北遺跡）、宮の前西遺跡、神田北遺跡であるが、遺構については未確認である。

伊居太神社参道遺跡は標高約50mの五月山丘陵西端部に位置し、明治年間から石器が採集され、その中に少量であるがナイフ形石器等の旧石器時代に比定されるものが認められている。宮の前遺跡では、昭和61年度の大阪府教育委員会による発掘調査で国府型ナイフ形石器、平成元・7年度の豊中市教育委員会による蛍池北遺跡発掘調査でナイフ形石器が出土している。また、宮の前遺跡に隣接する宮の前西遺跡からは翼状剥片1点が採取されている。神田北遺跡では、平成9年度からの大阪府教育委員会による都市計画道路池田・神田線拡幅工事に伴う調査で国府型ナイフ形石器が出土している。

### 縄文時代

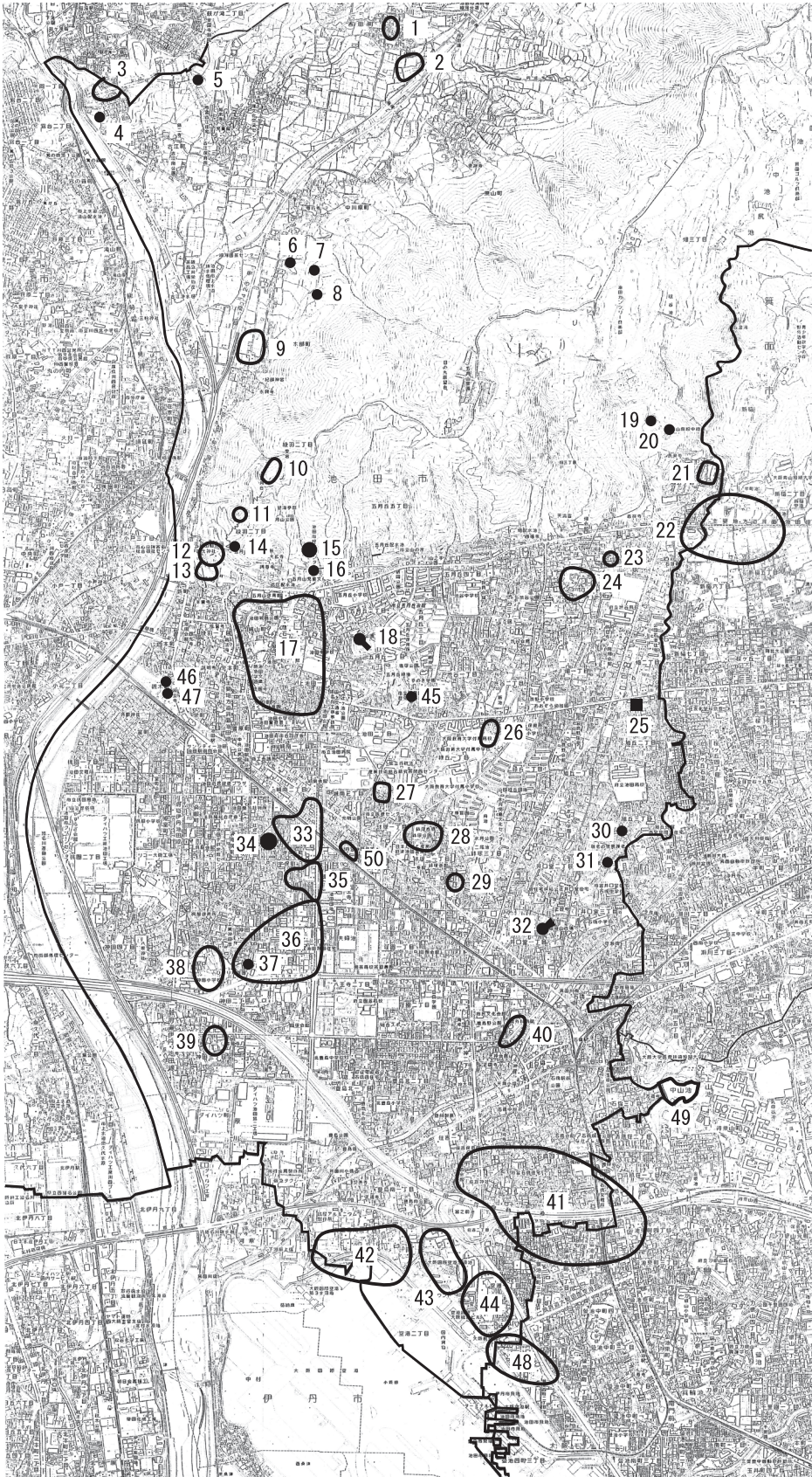
縄文時代に関する遺跡も少ない。市域北部での遺跡は、古江遺跡から石匙、木部遺跡では石鎌が出土している。市内中部の伊居太神社参道遺跡で縄文時代のサヌカイト製の石鎌、京中遺跡でサヌカイト製の石鎌・石匕が採取され、近隣の畑ではサヌカイト製の尖頭器が採集されている。また、近年の発掘調査で、池田城跡下層からサヌカイト製の石鎌や晩期の生駒西麓産突帯文土器が出土し、土坑などの遺構も検出されている。

一方、南部の台地に位置する神田北遺跡では石鎌・石匙、宮の前遺跡では石棒・石鎌が採取され、また、豊島南遺跡で後期から晩期の土器が出土している。しかし、出土遺物は少なく、縄文時代の集落の規模・性格等は明らかではない。



第1図 宮の前遺跡石棒





- 1 吉田古銭出土地
- 2 吉田遺跡
- 3 鼓ヶ滝遺跡
- 4 古江古墳
- 5 古江北古墳
- 6 木部1号墳
- 7 木部2号墳
- 8 木部桃山古墳
- 9 木部遺跡
- 10 愛宕神社遺跡
- 11 遺物散布地
- 12 五月山公園遺跡
- 13 伊居太神社参道遺跡
- 14 紅葉古墳
- 15 娛三堂古墳
- 16 娛三堂南古墳
- 17 池田城跡
- 18 池田茶白山古墳
- 19 善海1号墳
- 20 善海2号墳
- 21 石積廃寺
- 22 新稲西遺跡
- 23 畑有舌尖頭器出土地
- 24 京中遺跡
- 25 野田塚古墳
- 26 夏湖池遺跡
- 27 鉢塚北遺跡
- 28 鉢塚遺跡
- 29 鉢塚南遺跡
- 30 狐塚古墳
- 31 石橋古墳
- 32 二子塚古墳
- 33 禪城寺遺跡
- 34 宇保猪名津彦神社古墳
- 35 宇保遺跡
- 36 神田北遺跡
- 37 脇塚古墳
- 38 門田遺跡
- 39 神田南遺跡
- 40 天神遺跡
- 41 宮の前遺跡
- 42 豊島南遺跡
- 43 住吉宮の前遺跡
- 44 宮の前西遺跡
- 45 五月ヶ丘古墳
- 46 姫室
- 47 梅室
- 48 蛭池西遺跡
- 49 待兼山遺跡
- 50 柳原遺跡

第2図 遺跡分布図



## 弥生時代

弥生時代前期の遺跡としては、五月山北麗に位置する木部遺跡があげられる。木部遺跡は工事中に発見された遺跡で、その際に弥生時代前期から後期の土器が出土し、平成15年度の調査においても前期から中期の土器が出土している。弥生時代中期においては、池田市南部の台地上で遺跡が現れるようになる。宮の前遺跡は昭和43・44年に中国縦貫自動車道建設に伴い、大規模な発掘調査が行われ、方形周溝墓、竪穴住居跡、土壙墓等の遺構が多数検出されている。また、宮の前遺跡から西へ約1 kmに位置する豊島南遺跡では方形周溝墓が検出され、宮の前遺跡との関連が注目される。



第3図 豊島南遺跡 方形周溝墓

後期に入ると、宮の前遺跡、豊島南遺跡は消滅し、かわって、五月丘丘陵で池田城跡下層、京中遺跡、五月山山頂で愛宕神社遺跡が現れる。池田城跡下層では平成3年の調査において、ベッド状遺構を伴う竪穴住居跡が検出されている。また、神田北遺跡では、竪穴住居跡、土坑が検出され、隣接する柳原遺跡では、粘土採掘坑が検出されている。弥生時代後期になると小規模の遺跡が増加する。

## 古墳時代

市内に残る古墳時代前期の古墳は、池田茶白山古墳と娛三堂古墳である。池田茶白山古墳は五月山より派生する丘陵の鞍部に築造された全長62mの前方後円墳で、竪穴式石室、埴輪円筒棺、葺石、埴輪列が検出されている。一方、娛三堂古墳は池田茶白山古墳より北西約500m離れた五月山中腹に位置する径27mの円墳で、明治時代に石室内から画文帯神獸鏡などが出土している。平成元年度の調査の結果、同一の墓壙内に竪穴式石室と粘土槨が存在することが確認されている。



第4図 娛三堂古墳

古墳時代中期では小規模な低墳丘をもつ古墳が宮の前遺跡、豊島南遺跡で見られるようになる。

古墳時代後期では古江古墳、善海1・2号墳、木部1・2号墳、木部桃山古墳、須恵質の陶棺を持つ五月ヶ丘古墳のような単独、あるいは、2～3基を一単位とする小規模な古墳が現れるが、群集墳は形成されない。古江古墳は平成17年に電波塔工事によって破壊され、その際の

事後調査によって、須恵器・鉄刀が出土した。上記の小古墳が築造された一方で、巨大な横穴式石室を有する鉢塚古墳や前方後円墳の二子塚古墳が築造されており、この地域の古墳の中でも、鉢塚古墳と二子塚古墳は異質の存在である。古墳時代の集落遺跡として、豊島南遺跡では古墳時代前期の焼失住居跡、後期の竪穴住居跡、住吉宮の前遺跡では前期の土器棺墓、竪穴住居跡、宮の前遺跡では中期の竪穴住居跡、木棺墓、土壙墓、埴輪円筒棺、禅城寺遺跡では飛鳥時代の竪穴住居跡が検出されている。北部の古江遺跡、木部遺跡で須恵器や土師器が出土しているが、遺構の検出は未だいたっていない。

### 奈良時代から中世

集落遺跡としては、宮の前遺跡で奈良時代の掘立柱建物跡、溝が検出されており、豊島南遺跡、神田北遺跡においても奈良時代の掘立柱建物跡、溝が検出されている。寺院跡としては白鳳・奈良時代の瓦が採取された石積廃寺があるが、未調査のため詳細は明らかではない。

中世に入ると神田北遺跡で掘立柱建物跡が検出されており、土師氏によって開発が推進された呉庭荘と関係するものと考えられる。

室町時代から戦国時代にかけて、国人池田氏が豊島郡一帯の政治、経済を掌握するようになる。池田氏の出自の詳細は明らかではないが、応仁の乱ごろから摂津守護細川氏の被官として勢力を拡大させていくが、永禄11年（1568）織田信長の摂津入国により、池田氏は降伏を余儀なくされ、さらに、元家臣荒木村重によって、その地位を奪われることになる。池田氏の居館であった池田城跡は、五月山から南方へ張り出した台地上の南麓に位置する。昭和43・44年に主郭部の一部が調査された際、礎石を伴う建物跡や枯山水様の庭園跡が検出され、また、平成元年度から平成4年度の調査では虎口、建物跡、小規模な石垣、内堀、塼列建物跡等を確認している。池田城の主郭以外でも調査が行われ、平成19年度の調査では15世紀終わりの堀を検出している。



第5図 池田城跡主郭 庭園跡

### 参考文献

- 『原始・古代の池田』 池田市立池田中学校地歴部 1985年
- 『新修 池田市史』 第1巻 池田市 1997年
- 『宮之前遺跡発掘調査概報』 宮之前遺跡調査会 1970年
- 『禅城寺・宇保・神田北遺跡』 大阪府教育委員会 2002年
- 『住吉宮の前遺跡』 (財)大阪府文化財調査研究センター 2001年
- 『柳原遺跡発掘調査現地公開資料』 大阪府教育委員会 2011年



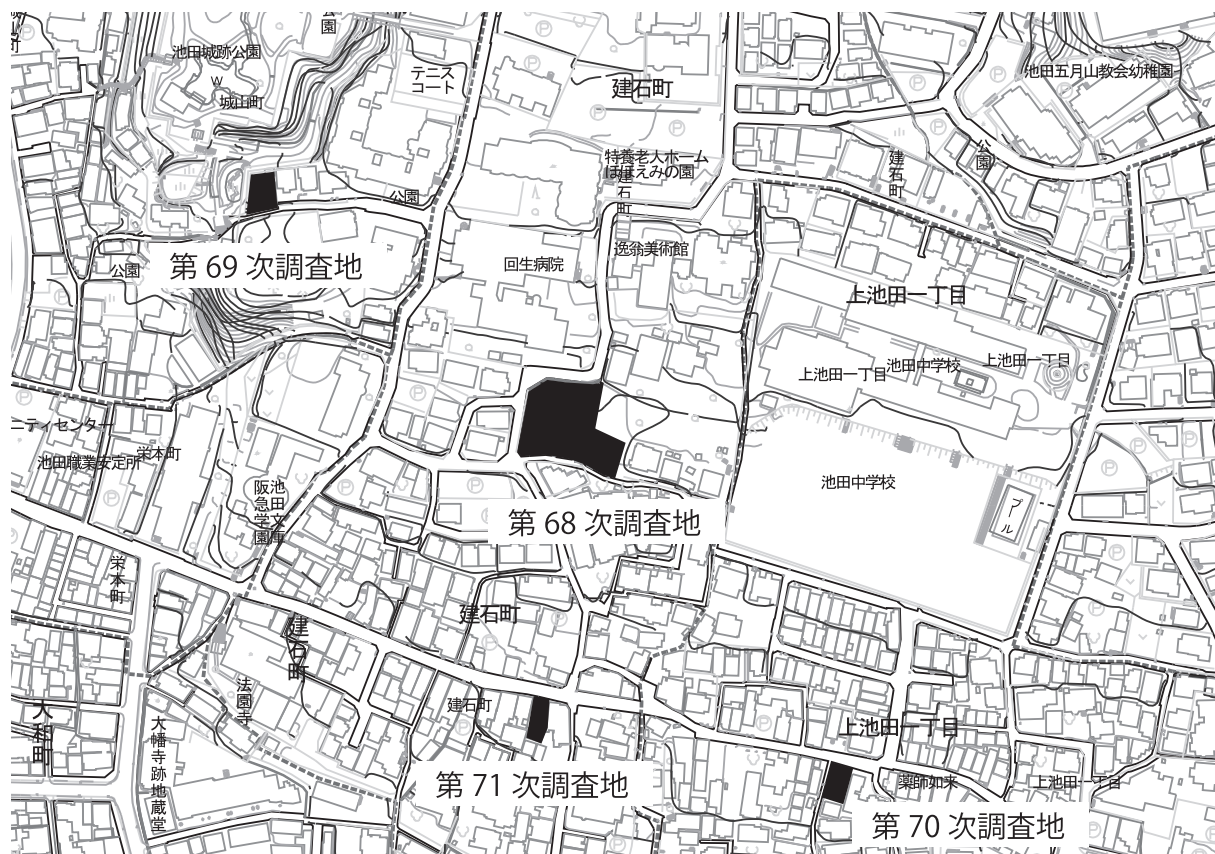
## II 池田城跡発掘調査

はじめに

池田城は、池田市城山町・建石町一帯に位置し、戦国期を中心とする国人池田氏の居城で、五月山から張り出した標高50mを測る台地の西縁辺に立地している。その場所からは、眼下に旧池田村を望むことができる。また、丹波山地から大阪湾に流れ込む猪名川、大阪と能勢地方を結ぶ街道を一望することもでき、そのことから、池田城は当時の交通の要衝に選地されていることが判る。

池田城を居城とした国人池田氏の出自についての詳細は明らかではないが、13世紀後半頃の文献からその名が散見されるようになる。しかし、当時の池田氏の動向は不明な点が多い。15世紀後半頃以降、摂津守護細川氏の被官として、幾度かの落城を経験しながらも、荘園経営や高利貸経営により勢力を伸ばし、摂津の国人の中でも有力な地位を得るようになった。しかし、永禄11年（1568）織田信長による摂津入国に際し、降伏を余儀なくされ、信長の支配下となる。その後、元家臣であった荒木村重によって城を奪われる。その後、池田城は村重の有岡城入城に伴い、政治・経済支配の拠点としての役割を終えることとなった。

池田城全体の構造について不明な点が多く残っていた。昭和43・44年に主郭の一部が発掘調査され、礎石を伴う建物跡、石組の溝、中世城郭では珍しい枯山水様の庭園、落城に伴う焼土層等が検出された。また、平成元年から4年に実施された主郭部の発掘調査では、排水のため



第6図 調査地位置図

の暗渠を埋設する虎口、礎石や一部瓦を伴う建物、石組の溝、小規模な石垣、主郭内に設けられた内堀、倉庫と考えられる塙列建物等が検出された。一方、大阪府教育委員会や池田市教育委員会による主郭周辺の発掘調査では、主郭部の南方約 100m の位置で大手口が存在することや平成19年度の調査で15世紀終わりの堀が検出されており、少しずつであるが城の全容が解明されつつある。また、池田城以前の時代についても、昭和60年以降の大阪府教育委員会による調査では縄文時代晩期の土器、古墳時代中期の土坑、奈良時代の木棺墓が検出されており、平成3年度の池田市教育委員会による発掘調査では、庄内期のベッド状遺構を伴う竪穴住居跡を検出している。

### 池田城跡第69次調査

#### 調査の概要

池田市城山町2057-2において、個人住宅建築に先立ち調査を実施した。調査地は主郭部の南に位置し、主郭をめぐる堀に接する場所である。調査地の南東に第1トレンチ・第2トレンチを設定した。調査面積は16㎡である。

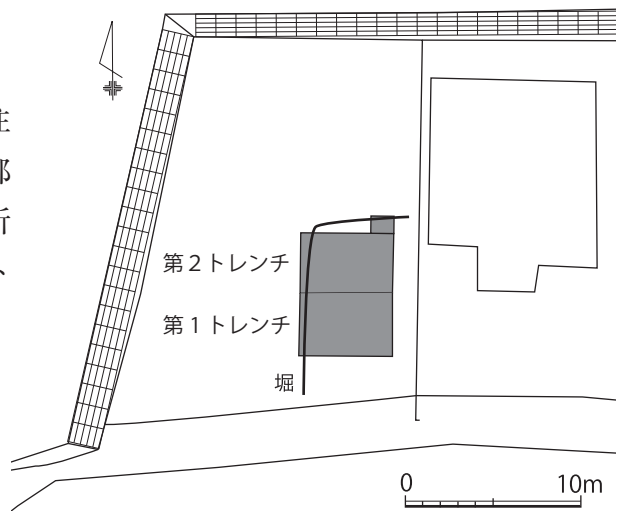
層序は、

第1層 盛土

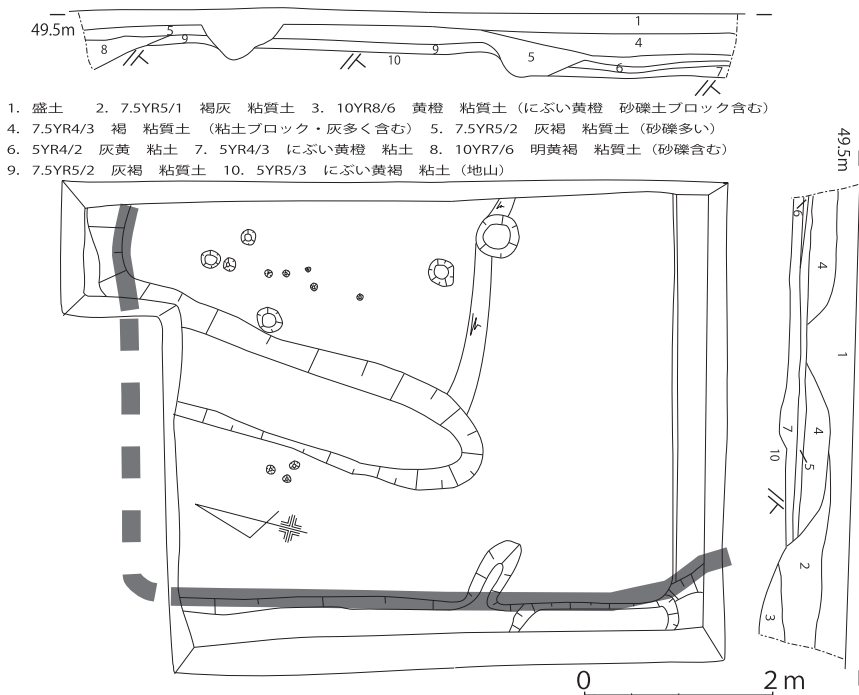
第2層 灰褐色粘質土

第3層 砂礫多く含む灰褐色粘質土

第4層 にぶい黄褐色粘土の地山である。



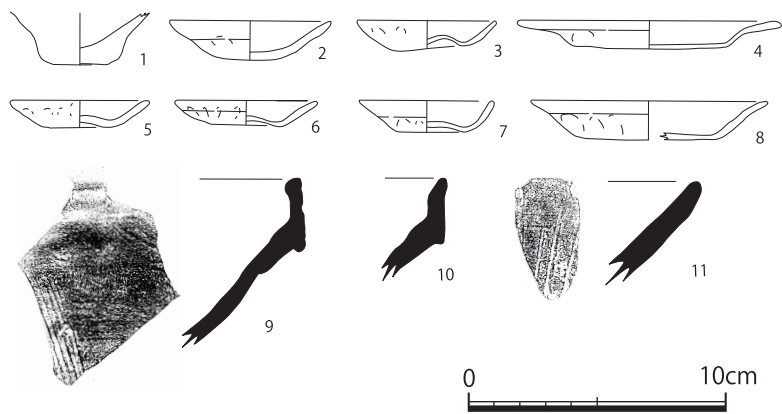
第7図 トレンチ位置図



第8図 トレンチ平・断面図

今回の調査では、堀へ向かう落ち込み、溝、杭、柱穴を検出した。柱穴について、掘立柱建物跡の復元はできなかった。

第1から3層、落ち込み等から弥生土器、土師器皿、国産陶器、中国製磁器、瓦等が出土した。1は第2トレンチ第1層より出土した弥生土器の



第9図 出土遺物実測図

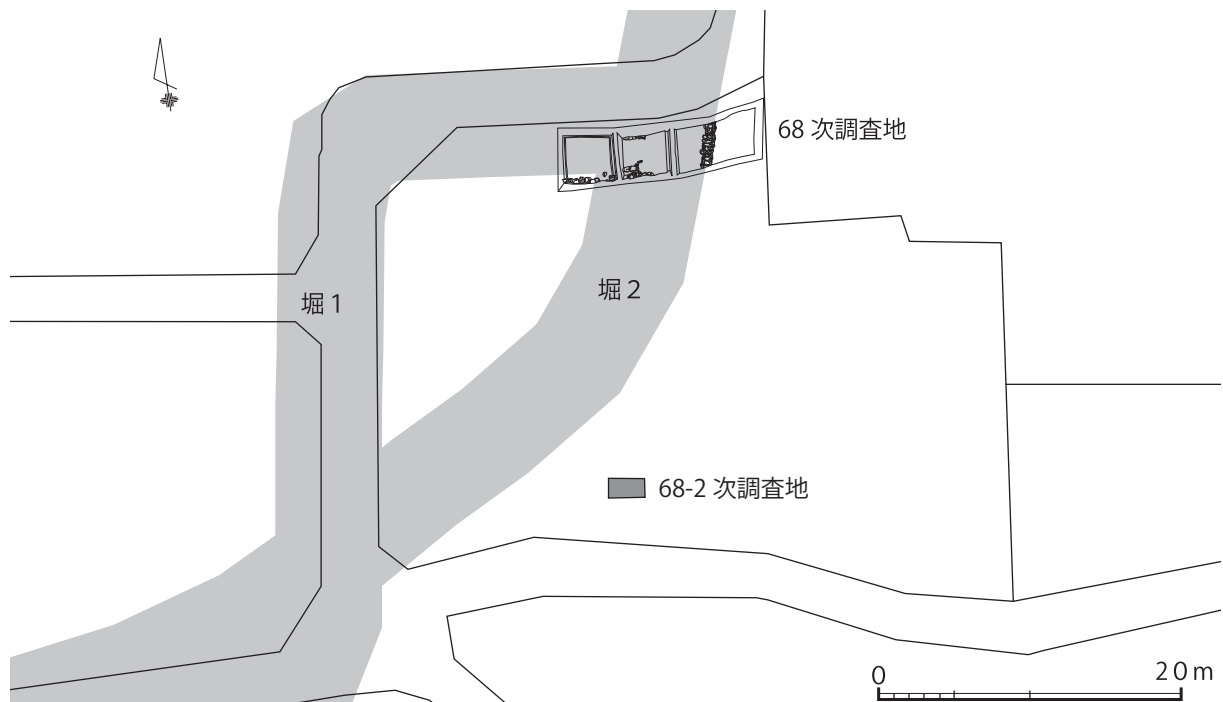
の底部、2から8は土師器皿で、2から4は第2トレンチ第3層より出土した。5から8は第2トレンチ北へ向かう落ち込みより出土した。9・10は備前播鉢で第1トレンチ第3層より出土した。11は丹波播鉢で第1トレンチ第2層より出土した。

北・西方向の堀へ向かう落ち込みを確認したが、堀に伴う柵列等の遺構は確認できなかった。遺物は多く出土したため、調査地周辺は居住性が高く、土塁の存在は考えにくい。また、地山上の第3層から16世紀後半の遺物が出土しており、16世紀後半に調査地周辺で大規模な整地等が行われたことが分かる。

## 池田城跡第68-2次調査

### 調査の概要

平成23年4月4日から平成23年4月19日の間、池田市建石町1991-1他において、民間開発



第10図 トレンチ位置図



に伴う池田城跡第68次調査を実施した。その結果、分岐する2条の堀を検出し、土師器皿、国産陶器、中国製磁器、瓦などが出土した。今回の調査は、第68次調査で検出した堀の延長の有無を確認するのが主眼に置き実施した。調査面積は3㎡である。

層序は、

第1層 盛土

第2層 にぶい黄橙色粘質土

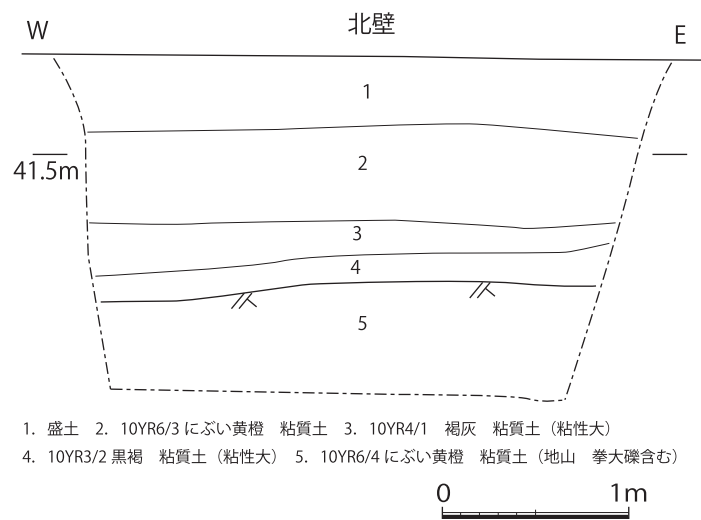
第3層 褐灰色粘質土

第4層 黒褐色粘質土

第5層 にぶい黄橙色粘質土（礫含む）の地山である。

調査の結果、検出遺構はなく、堀の確認は至らなかった。そのため、堀は南へ至らず。調査トレンチ北側で西に屈曲すると考える。

第3・4層から土師器皿などが出土したが、図化できるものはなかった。



- 1. 盛土 2. 10YR6/3 にぶい黄橙 粘質土 3. 10YR4/1 褐灰 粘質土 (粘性大)
- 4. 10YR3/2 黒褐 粘質土 (粘性大) 5. 10YR6/4 にぶい黄橙 粘質土 (地山 拳大礫含む)

第11図 トレンチ断面図



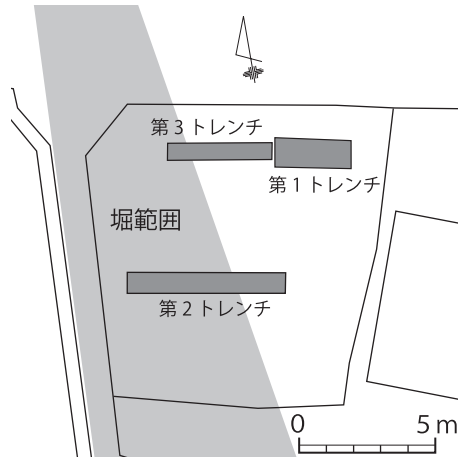
第12図 池田城跡第68次調査写真

### 池田城跡第70次調査

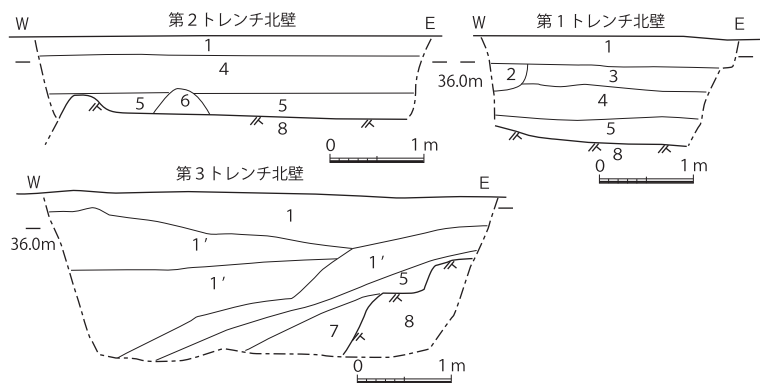
#### 調査の概要

池田市上池田1-3336-1において、個人住宅建築に先立ち調査を実施した。調査地は能勢街道沿いに位置し、周辺の調査の結果、池田城の堀が南北に走ると考える場所である。調査面積は6㎡である。

層序は、



第13図 トレンチ位置図



- 1. 盛土 1': 近代の盛土 2. 5YR2/1 黒褐 粘質土 3. 5YR4/1 褐灰 粘質土 (拳大礫多い)
- 4. 5YR4/1 褐灰 粘質土 (砂・少礫含む) 5. 5YR4/1 褐灰 粘質土 (拳大礫多い)
- 6. 2.5Y8/3 淡黄 粘土 7. 5YR3/3 暗赤褐 粘質土 8. 5YR5/8 にぶい黄橙 粘土

第14図 トレンチ断面図

第1層 盛土

第2層 灰黄褐色粘質土

第3層 黒色粘質土

第4層 灰褐色粘質土（礫含む）の地山である。

今回の調査では、堀と考えられる落ち込みを検出した。堀は南北に伸び、周辺の調査の結果、幅はおおよそ5 m程度と考えられる。落ち込み内からは近世の遺物が出土しているため、池田城以後、水路として利用されていたと考えられる。土師器皿等が出土したが、図化できるものはなかった。

### 池田城跡第71次調査

#### 調査の概要

池田市建石町3317-1において、個人住宅建築に先立ち調査を実施した。調査地は能勢街道沿いに位置する。調査面積は6 m<sup>2</sup>である。

層序は、

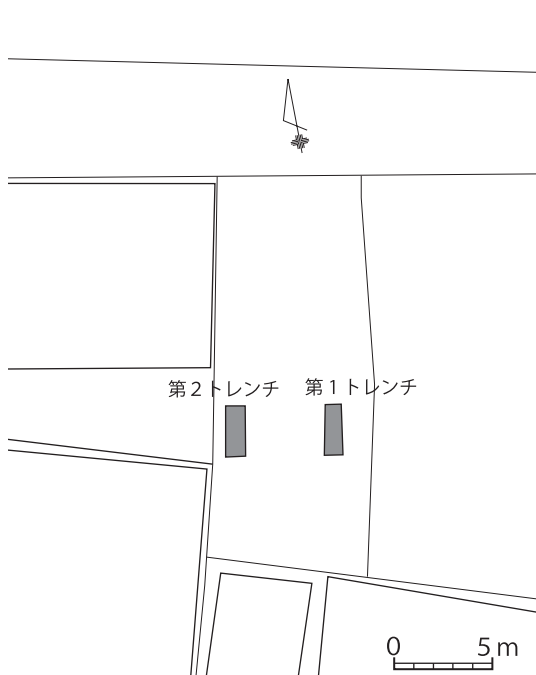
第1層 盛土

第2層 灰褐色粘質土

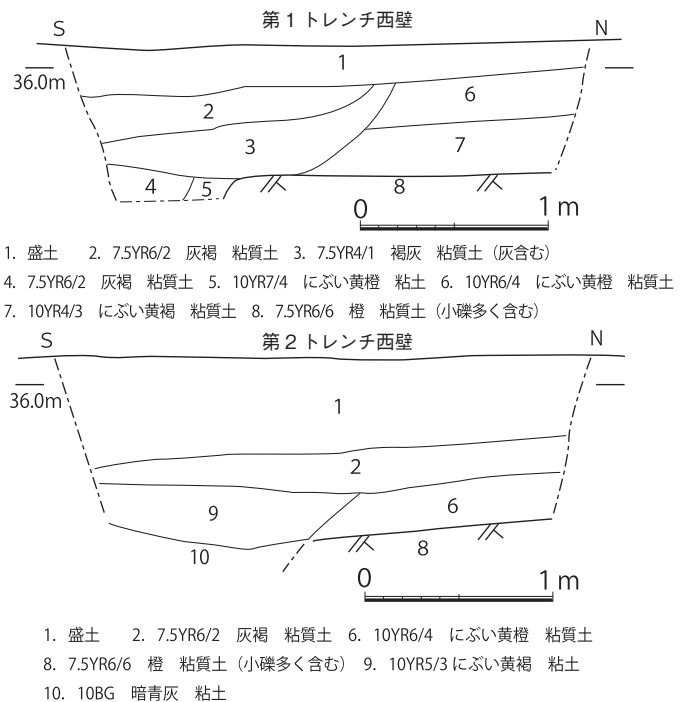
第3層 にぶい黄褐色粘質土

第4層 橙色粘質土（小礫多く含む）の地山である。

今回の調査では、南に向かう落ちを確認した。調査地は南へ下がる地形のため、整地に伴う切土のための落ち込みと考える。土師器皿等が出土したが、図化できるものはなかった。



第15図 トレンチ位置図



第16図 トレンチ断面図

### Ⅲ 宮の前遺跡発掘調査

はじめに

宮の前遺跡は池田市石橋4丁目、住吉1・2丁目、豊中市蛍池北町に広がる旧石器時代から中世に至る複合遺跡で、待兼山の丘陵より西方へ発達した標高約30m前後の洪積台地に立地する。

宮の前遺跡は、昭和の初頭に地元の人々により石器や土器などが採取されており、遺跡の存在が知られていたが、本格的な調査は行われておらず、遺跡の性格等は不明であった。昭和43・44年の中国縦貫自動車道建設に伴い発掘調査が実施され、その結果、弥生時代中期の方形周溝墓、竪穴住居跡、土壙墓等の他、古墳時代の竪穴住居跡、古墳等が検出され、特に、当時、検出例が少なかった方形周溝墓が住居とともに多く検出されたことから、住居域と墓域が同時に把握できる貴重な例として注目されるようになった。他にも、奈良時代の掘立柱建物跡、井戸、平安時代の掘立柱建物跡等も確認され、弥生時代から中世に及ぶ複合遺跡として認識されるようになった。

その後、昭和61年度の大阪府教育委員会による調査、平成元年度の豊中市教育委員会による調査で、国府型ナイフ形石器が出土し、当遺跡が旧石器時代までさかのぼることが判明し、遺跡の範囲は東西700m、南北900mと拡大している。

周辺の遺跡としては、南方に弥生時代中期の方形周溝墓等が検出された豊島南遺跡、古墳時



第17図 調査地位置図

代前期の土器棺墓、竪穴住居跡が検出された住吉宮の前遺跡が位置し、西方に待兼山遺跡、須恵器を生産した桜井谷古窯跡群が広がり、古墳時代前期の掘立柱建物跡が検出された蛸池東遺跡、翼状剥片が出土した蛸池西遺跡がある。

参考文献

- 『宮之前遺跡発掘調査概報』 宮之前遺跡調査会 1970年
- 『蛸池北遺跡（宮の前遺跡）』 豊中市教育委員会 1995年
- 『新修 池田市史』第1巻 池田市 1997年
- 『住吉宮の前遺跡』（財）大阪府文化財調査研究センター 2001年

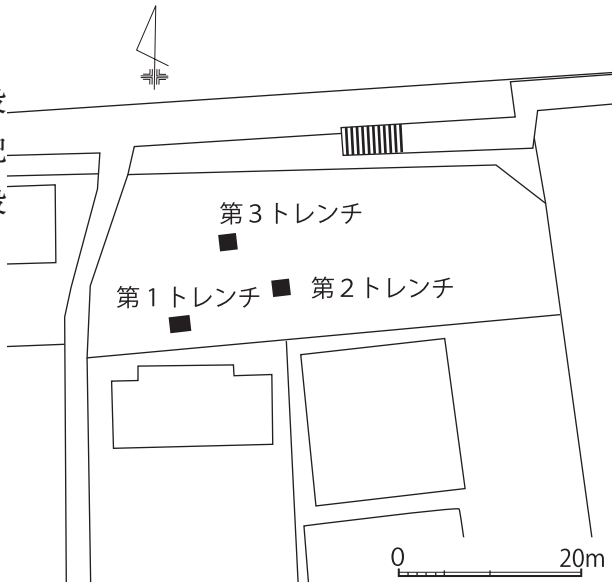
宮の前遺跡第56次調査

調査の概要

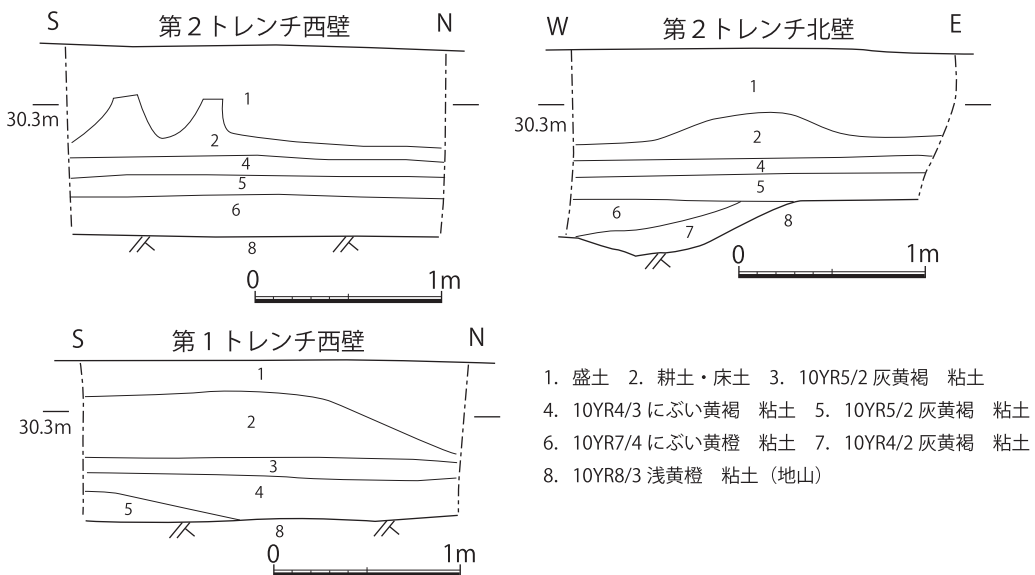
石橋4-170-1において寺院の集会所建設に伴う試掘調査である。調査地の西側に建物配置予定個所のため、西側を中心にトレンチを設定し調査を実施した。調査面積は25㎡である。

層序は、

- 第1層 盛土
- 第2層 耕土
- 第3層 灰黄褐色粘土
- 第4層 にぶい黄褐色粘土
- 第5層 灰黄褐色粘土
- 第6層 浅黄橙色粘土の地山である。



第18図 トレンチ位置図



- 1. 盛土 2. 耕土・床土 3. 10YR5/2 灰黄褐 粘土
- 4. 10YR4/3 にぶい黄褐 粘土 5. 10YR5/2 灰黄褐 粘土
- 6. 10YR7/4 にぶい黄橙 粘土 7. 10YR4/2 灰黄褐 粘土
- 8. 10YR8/3 浅黄橙 粘土 (地山)

第19図 トレンチ断面図

調査の結果、北側の第1トレンチは、既存の建物によって破壊されており、層位は確認できなかった。南側の第2・第3トレンチでは層位は確認できたものの、遺構等は確認できなかった。第2トレンチの第3層より、須恵器甕、土師器皿片が出土したが、小片のため図化はできなかった。

## 宮の前遺跡第57次調査

### 調査の概要

石橋4-163-14他において建売住宅建築に伴う試掘調査である。調査地の中央にトレンチを設定した。調査面積は6㎡である。

層序は、

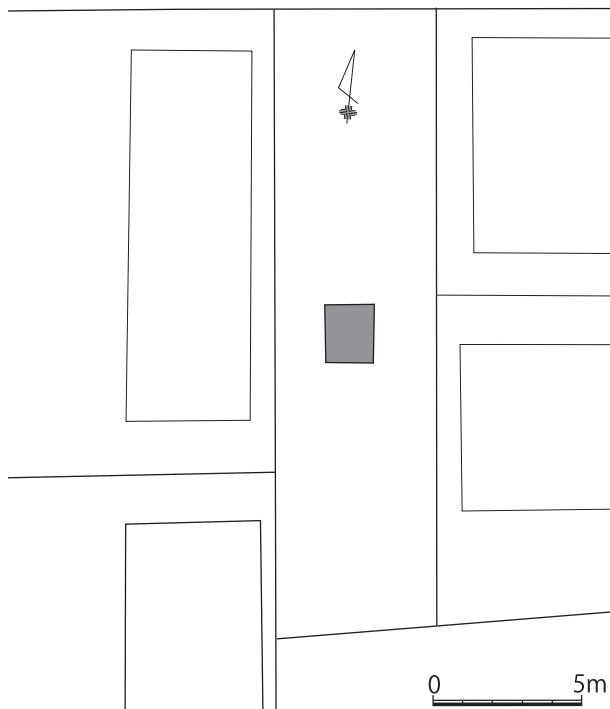
第1層 盛土

第2層 耕土・床土

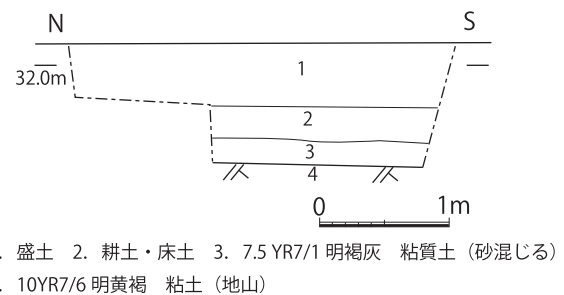
第3層 明褐灰色粘質土

第4層 明黄褐色粘土の地山である。

調査の結果、遺構は検出できなかった。第3層より土師器が出土したが、小片のため図化できなかった。



第20図 トレンチ位置図



第21図 トレンチ断面図



## IV 豊島南遺跡第10次調査

はじめに

豊島南遺跡は、池田市の南側、豊島南2丁目一帯にひろがる縄文時代から中世にいたる複合遺跡である。

豊島南遺跡は、昭和55・56年の池田市教育委員会による分布調査の結果発見され、その後、昭和60年の大阪府教育委員会の調査では弥生時代後期の溝や中世の溝等が検出されている。昭和62年からの阪神高速道路池田延伸線工事に伴う発掘調査では、縄文時代後期から晩期の土器片、弥生時代中期の方形周溝墓、庄内期の竪穴住居、布留期の焼失住居、古墳時代中期の方墳、古墳時代後期の竪穴住居・溝、奈良時代の掘立柱建物跡、中世の溝等が確認され、徐々にではあるが、遺跡の概要は判明しつつある。

### 調査の概要

豊島南1-343-10において、個人住宅建設に先立ち調査を実施した。調査地西側に第1トレンチ、北側に第2トレンチ、西側に第3トレンチを設定した。調査面積は13㎡である。

層序は、

第1層 盛土

第2層 耕土・床土

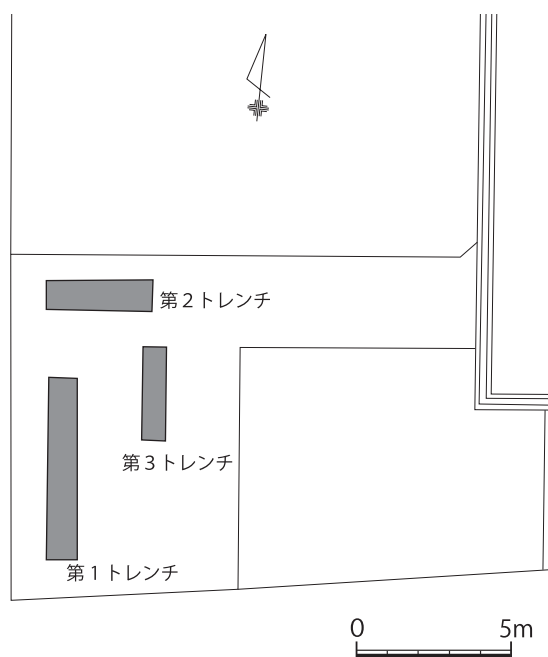
第3層 褐色粘質土（mg含む。）

第4層 褐色粘質土（砂礫含む。）

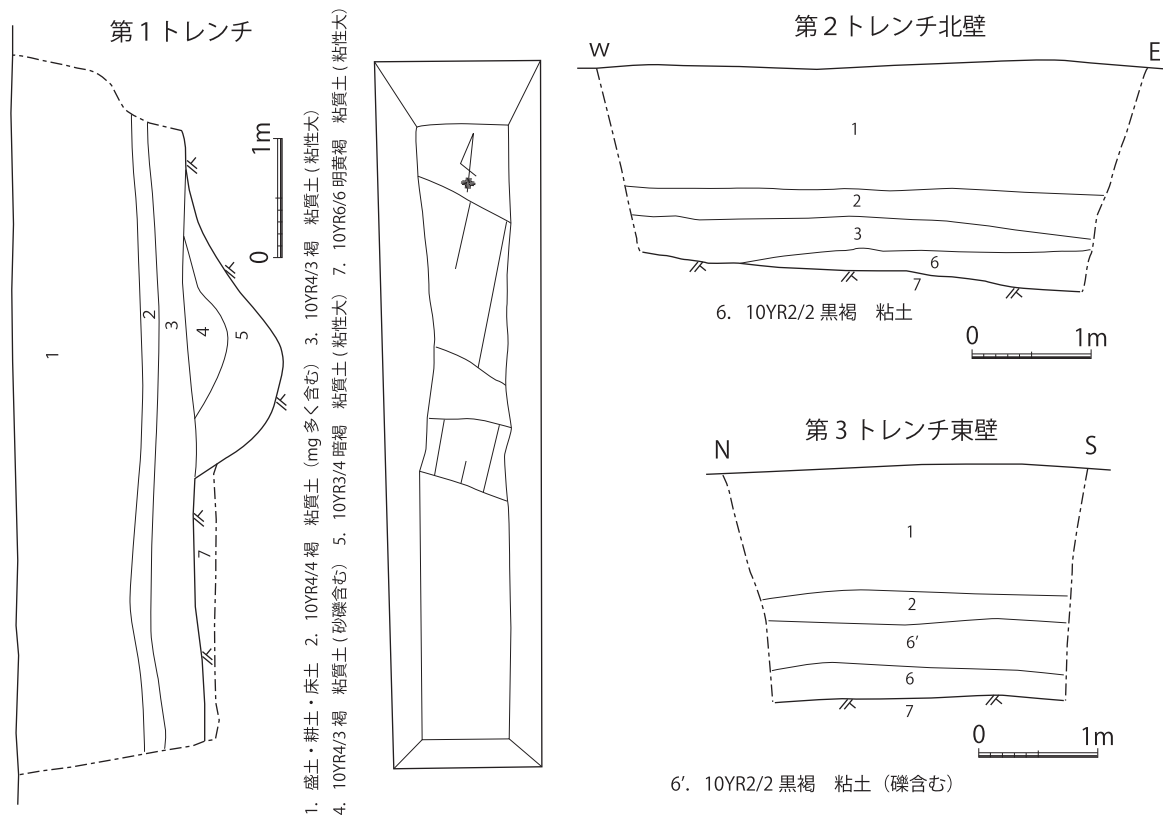
第5層 黒褐色粘質土（第2・第3トレンチ）



第22図 調査地位置図



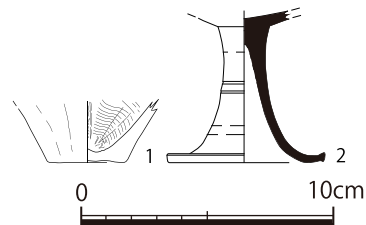
第23図 トレンチ位置図



第24図 トレンチ平・断面図

第6層 明黄褐色粘質土の地山である。

今回の調査では、第1トレンチより土坑を検出したが、それ以外の遺構は検出できなかった。また、各トレンチから弥生土器・土師器・須恵器等が出土した。1・2は第1トレンチの第4層より出土した。1は弥生土器の底部、2は須恵器の高杯である。



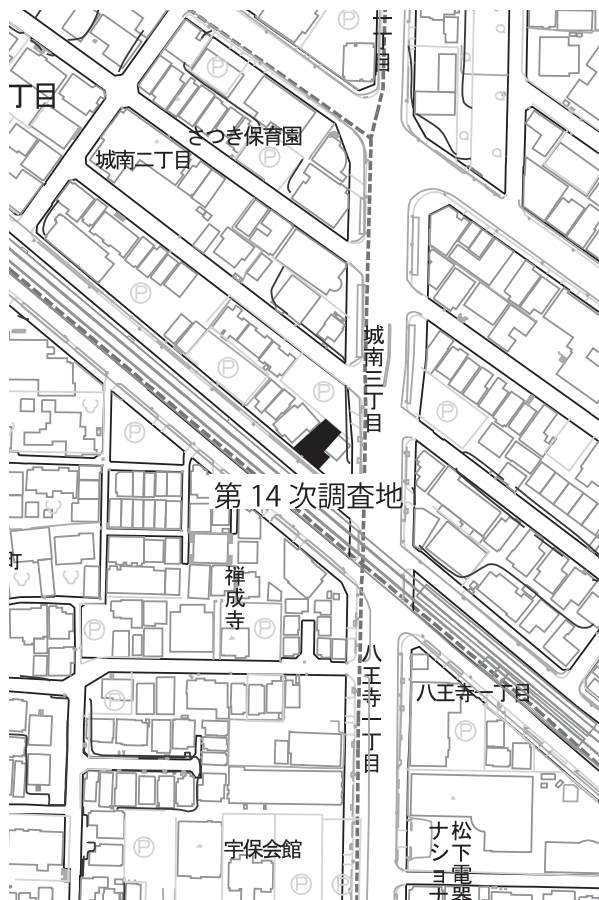
第25図 出土遺物実測図

## V 禅城寺遺跡第14次調査

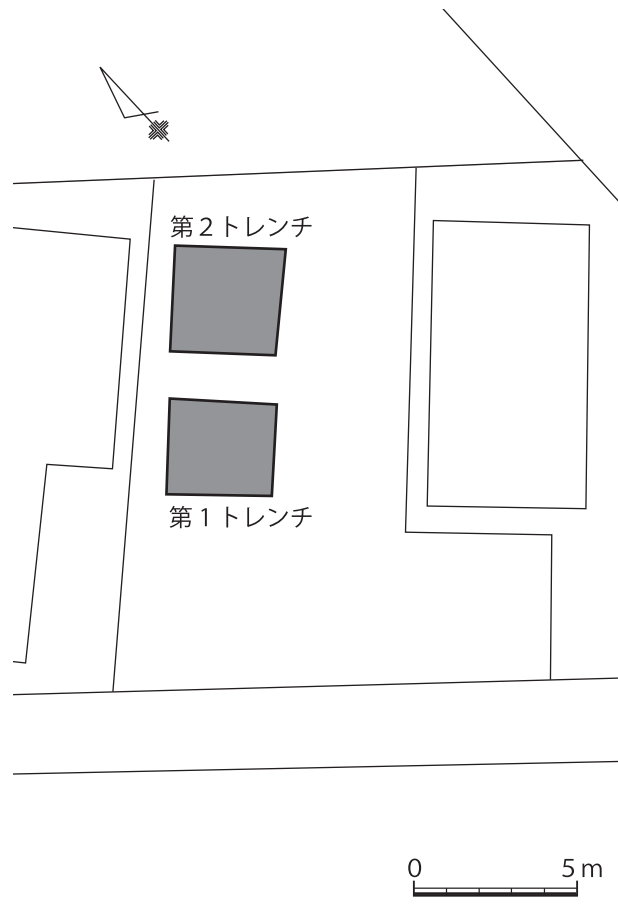
はじめに

禅城寺遺跡が位置する宇保町一帯は、11世紀頃、土師氏によって開発された呉庭荘と比定される。呉庭荘は平安時代後期の鳥羽院政期には皇室領となり、鎌倉時代に入ると皇室領からは離れ、農業信仰の牛頭天王を祭神とする呉庭総社を創設し、社領荘園として直接支配が図られた。善城寺も呉庭総社とともに氏寺として創建された。禅城寺は坂上氏系譜にみられる善城寺と考えられるが、詳しいことはわかっていない。

禅城寺遺跡の発見は、昭和62年マンション工事中に中世の瓦が発見されたことから始まるが、その後、調査の件数が少なく不明な点が多かった。しかし、平成9年、遺跡の東側に位置する府道拡幅工事に伴う大阪府教育委員会の試掘調査の結果、中世遺物が発見されたことにより、遺跡範囲の拡大が行われた。また、平成10年に実施した池田市教育委員会による個人住宅建設に伴う緊急発掘調査の結果、飛鳥時代の竪穴住居跡4基、奈良時代の掘立柱建物跡1基、弥生時代後期の土器が出土した。こうした成果から、禅城寺遺跡は宇保町・城南2丁目一帯にひろがる弥生時代後期から中世にかけての複合遺跡であることが明らかになった。



第26図 調査地位置図



第27図 トレンチ位置図



## 調査の概要

発掘調査は池田市城南2-77-3において、個人住宅建築に先立ち実施した。調査面積は18㎡である。

基本層序は、

第1層 盛土

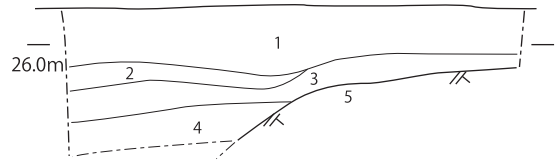
第2層 にぶい赤褐色粘土

第3層 暗褐色粘土

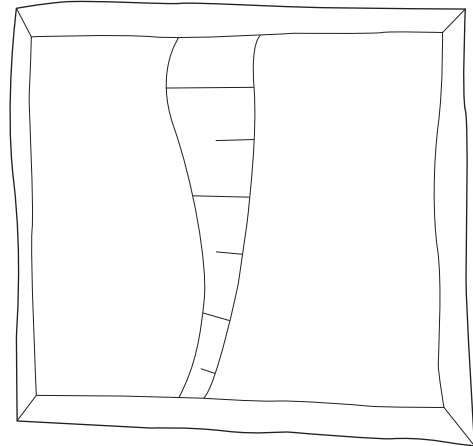
第4層 明黄褐色粘土の地山である。

調査の結果、南に位置する第1トレンチからは遺構は検出できなかったが、北に位置する第2トレンチからは西へ向かう落ち込みを検出した。なお、基礎の関係で表土下100cm以上の掘削はできなかったため、落ち込みの深さなどの詳細は確認できなかった。

第2トレンチの落ち込み埋土より、須恵器甕が出土した。外面に波状文、体部内面にタタキ痕が残る。

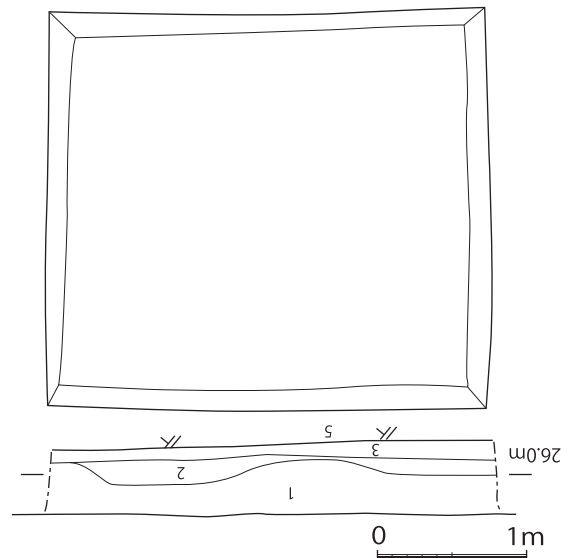


1. 盛土 2. 5YR4/4 にぶい赤褐 粘土
3. 10YR3/3 暗褐 粘土 (地山ブロック混じる)
4. 10YR3/3 暗褐 粘土 5. 10YR7/6 明黄褐 粘土 (地山)

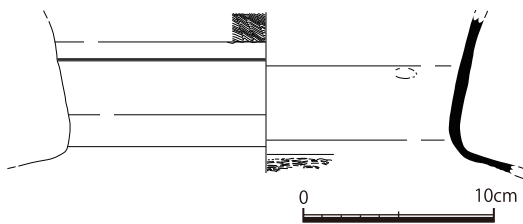


第2トレンチ

第1トレンチ



第28図 トレンチ平・断面図



第29図 出土遺物実測図





1) 池田城跡第69次調査 第1トレンチ全景 (南東から)



2) 池田城跡第69次調査 第2トレンチ全景 (南から)





1) 池田城跡第68-2次調査トレンチ全景 (南東から)



2) 池田城跡第70次調査 第1 トレンチ全景 (南から)





1) 池田城跡第70次調査 第2トレンチ全景 (東から)



2) 池田城跡第70次調査 第3トレンチ全景 (西から)





1) 池田城跡第71次調査 第1トレンチ全景 (北東から)



2) 池田城跡第71次調査 第2トレンチ全景 (北東から)





1) 宮の前遺跡第56次調査 第1トレンチ全景 (南東から)



2) 宮の前遺跡第56次調査 第2トレンチ全景 (南東から)





1) 宮の前遺跡第57次調査 トレンチ全景 (北東から)



2) 豊島南遺跡第10次調査 第1 トレンチ全景 (南東から)



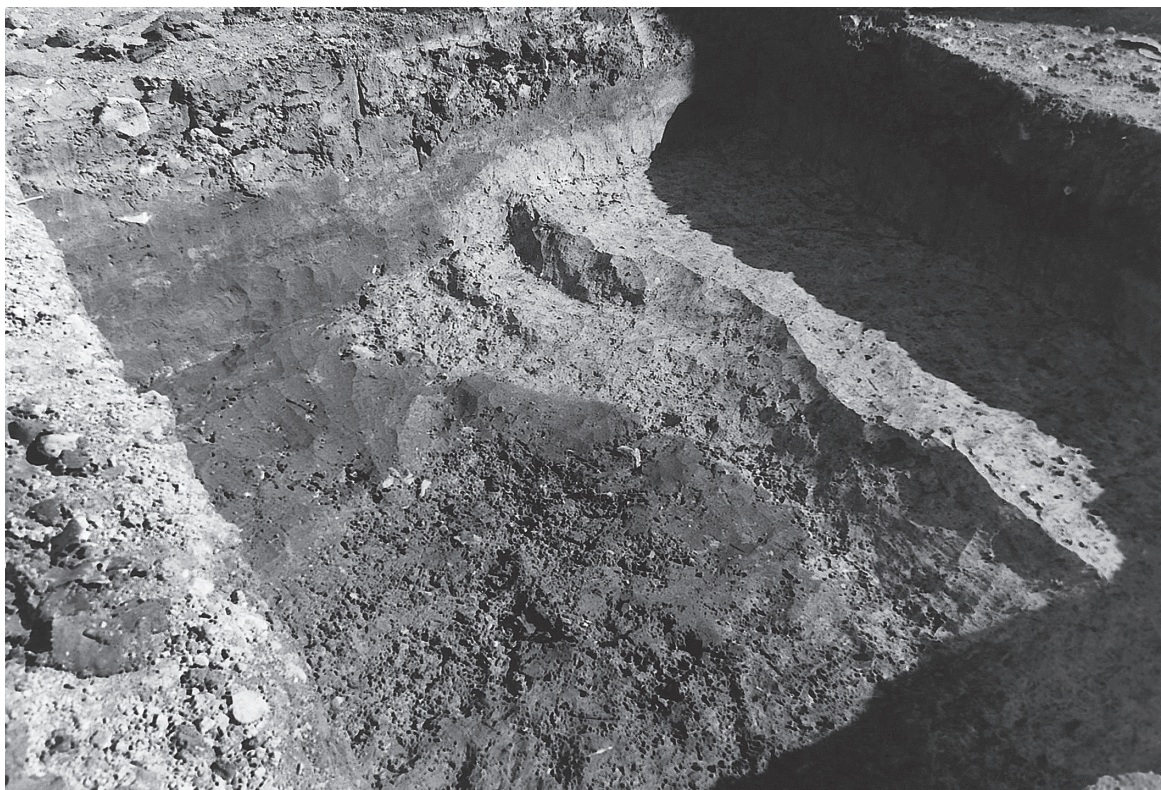


1) 豊島南遺跡第10次調査 第2トレンチ全景 (南東から)



2) 豊島南遺跡第10次調査 第3トレンチ全景 (南東から)





1) 禅城寺遺跡第14次調査 第1トレンチ全景 (北から)



2) 禅城寺遺跡第14次調査 第2トレンチ全景 (北東から)





1) 池田城跡第 69 次調査出土遺物 1



2) 池田城跡第 69 次調査出土遺物 2



3) 池田城跡第 69 次調査出土遺物 3



4) 池田城跡第 69 次調査出土遺物 5



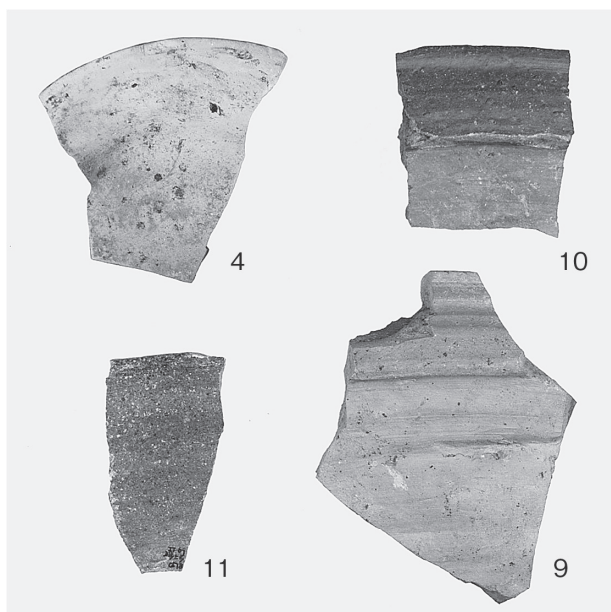
5) 池田城跡第 69 次調査出土遺物 6



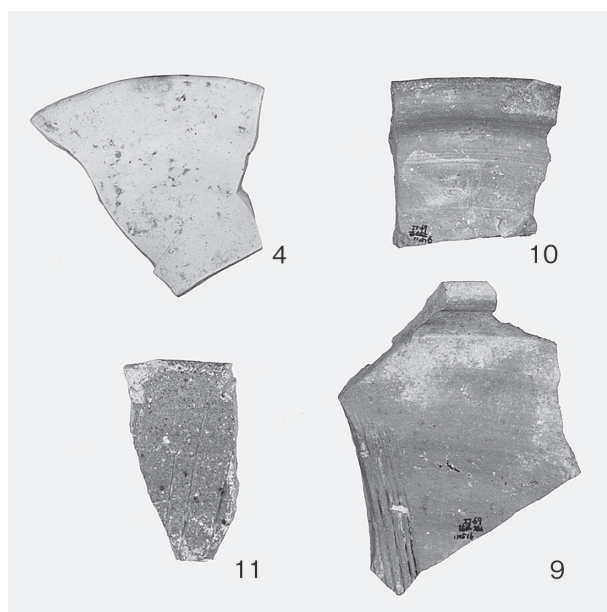
6) 池田城跡第 69 次調査出土遺物 7



7) 池田城跡第 69 次調査出土遺物 8



1) 池田城跡第69次調査出土遺物 表



2) 池田城跡第69次調査出土遺物 裏



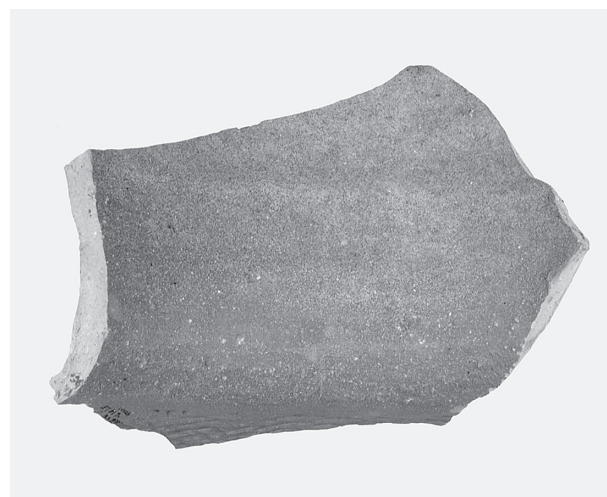
3) 豊島南遺跡第10次調査出土遺物1



4) 豊島南遺跡第10次調査出土遺物2



5) 禅城寺遺跡第14次調査出土遺物 表



6) 禅城寺遺跡第14次調査出土遺物 裏

## 報 告 書 抄 録

ふりがな	いけだしまいぞうぶんかざいはつちょうさがいほう
書名	池田市埋蔵文化財発掘調査概報
副書名	池田市文化財調査報告第38集
シリーズ名	池田市文化財調査報告
シリーズ番号	38
編著者名	中西正和
編集機関	池田市教育委員会
所在地	〒563-8666 大阪府池田市城南1丁目1番1号 072-752-1111
発行年月日	2012年3月30日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いけだじょうせき 池田城跡第69次調査	しろやまちょう 城山町 2057-2	272043	—	34度49分 34秒	135度 25分42秒	110513～ 110519	16㎡	個人住宅建設のための調査
池田城跡第68-2次調査	たていしちょう 建石町 1991-1	272043	—	34度49分 31秒	135度 25分46秒	110602	3㎡	遺構確認調査
池田城跡第70次調査	うえいけだ 上池田 1-3336-1	272043	—	34度49分 26秒	135度 25分49秒	111005	6㎡	個人住宅建設のための調査
池田城跡第71次調査	建石町 3317-1	272043	—	34度49分 26秒	135度 25分47秒	120112	6㎡	個人住宅建設のための調査
みやまえいせき 宮の前遺跡第56次調査	いしはし 石橋 4-170-1	272043	—	34度47分 59秒	135度 26分49秒	110512	25㎡	寺院建設のための試掘調査
宮の前遺跡第57次調査	石橋4-163-14の一部	272043	—	34度48分 03秒	135度 26分47秒	110614	6㎡	建売住宅建設のための試掘調査
てしまみなみいせき 豊島南遺跡第10次調査	としまみなみ 豊島南 1-343-10	272043	—	34度48分 48秒	135度 26分13秒	110915	13㎡	個人住宅建設のための調査
ぜんじょういせき 禅城寺遺跡第14次調査	じょうなん 城南 2-77-3	272043	—	34度49分 04秒	135度 25分52秒	111014	18㎡	個人住宅建設のための調査

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
池田城跡第69次調査	集落跡・城館跡	縄文から中世	柱穴・堀に伴う落ち込み	弥生土器・須恵器・土師器Ⅲ・ 中国製青磁・瓦等	
池田城跡第68-2次調査	集落跡	縄文から中世	—	土師器Ⅲ等	
池田城跡第70次調査	集落跡	縄文から中世	落ち込み	土師器Ⅲ	
池田城跡第71次調査	集落跡	縄文から中世	落ち込み	土師器Ⅲ	
宮の前遺跡第56次調査	集落跡	旧石器から中世	—	須恵器・土師器	
宮の前遺跡第57次調査	集落跡	旧石器から中世	—	須恵器・土師器Ⅲ	
豊島南遺跡第10次調査	集落跡	縄文から中世	土坑	弥生土器・須恵器・土師器等	
禅城寺遺跡第14次調査	城館跡・集落跡	縄文から中世	落ち込み	須恵質甕	

要約	いけだじょうせき 池田城跡第69次調査において、堀に伴う落ち込みを検出する。また、遺物も多く出土した。
----	--

池田市文化財調査報告第38集  
池田市埋蔵文化財発掘調査概報  
2011年度  
2012年3月  
発行 池田市教育委員会  
池田市城南1丁目1番1号  
編集 生涯学習推進課  
印刷 セイコープロセス株式会社